

3節 日清・日露戦争と近代産業



- 1 欧米列強の侵略と**
- (1) 欧米の列強は、資源や市場を求めて、アジアやアフリカへ進出し、やがて軍事力によってこれらの地域を植民地にした。こうした列強の動きのことを何主義というか。
 - (2) 外務卿(大臣)の井上馨は、鹿鳴館で舞踏会を開くなどの()政策をとった。
 - (3) 1894年にイギリスと領事裁判権を撤廃した日英通商航海条約を結んだ外務大臣。
 - (4) イギリス船が和歌山県沖で沈没し、日本人乗客全員が水死した事件。イギリス人船長は軽いばつをあたえただけですんだ。
 - (5) 1894年に朝鮮でおきた、腐敗した役人の追放や日本や欧米など外国人の排除を目指して、農民が蜂起したできごと。
 - (6) (5)の後に朝鮮の政府が清に出兵を始めたのをきっかけに()戦争がおきた。
 - (7) (6)の戦争に勝利した日本は()条約を結んだ。
 - (8) (7)の条約の内容は()の独立を認めること。
 - (9) (6)条約の内容は(①)-(②)-澎湖諸島を日本にゆずりわたし、賠償金2億両(当時の日本円で3億1000万円)支払うこと。
 - (10) (9)の②を領有した日本は、住民の抵抗を武力で抑えるために()を置いた。
 - (11) 1897年に朝鮮は国名を何に改めたか。
 - (12) 清の弱体化をみて、列強は競って清に進出し、清の国内に独占的な勢力範囲をつくっていったこと。
 - (13) (7)の条約後ロシアは、日本が獲得した遼東半島を清に返還するよう、ドイツ・フランスとともに勧告してきた。
 - (14) その後ロシアは日本が返還した遼東半島の(①)と(②)を租借して、自らの根拠地とした。
 - (15) 急速な国力の発展には政治の安定が必要だったため、伊藤博文は、1900年に()を結成した。これ以後政党の中心となった。
 - (16) 1899年に中国で起こった、外国勢力を追いはらおうとする運動を日本などが鎮圧した事件。
 - (17) ロシアに対抗するために、1902年にイギリスと結んだ条約。
 - (18) このころ開戦に反対していた社会主義者的人物。(二人)
 - (19) 1904年にロシアとの間で起きた戦争。
 - (20) (19)は両国とも戦争の継続が困難となり、アメリカの仲介で()条約を結んだ。
 - (21) (20)条約の内容は()における日本の優越権を認めること。
 - (22) (20)条約の内容は(①)-(②)の租借権、長春以南の鉄道の利権を日本に譲り渡すこと。
 - (23) (20)条約の内容は北緯50度以南の()の割譲と沿海州、カムチャッカ半島の日本の漁業権を認めること。
 - (24) 日本国では戦争による犠牲者の大きさに比べて、賠償金が得られなかつたなどの理由で、東京で、暴動をともなう民衆の運動にまで発展した事件。
 - (25) 1905年に日本は韓国を保護国として外交権をうばい、()を置いた。
 - (26) 1907年には皇帝が退位させられ、軍隊も解散された。韓国の国内ではこうした動きに対する抵抗運動が広がり、解散させられた兵士と農民が立ちあがった事件。
 - (27) 1910年に日本が朝鮮半島を植民地にしたこと。
 - (28) (27)の際日本は韓国に何を置いたか。
 - (29) 中国では、帝国主義の列強の圧迫に対抗する動きが強まり、清を倒して近代国家を目指す革命運動の中心となった人物。
 - (30) (29)が唱えた、民族の独立、政治的な民主化、民衆の生活の安定の三つからなる革命の指導理念。
 - (31) 南京を首都とする、アジアで最初の共和国。
 - (32) 清が倒れ、アジアで最初の共和国が成立した革命。
- 2 日清戦争**
- 3 日露戦争**
- 4 韓国と中国**